



高知県における 早掘り甘しょ栽培

高知県農林水産部園芸蚕糸課 西内 允武

生産概況☆☆☆

本県は、年平均気温 16℃年間降水量 2,880 mmと温暖多雨であり、この恵まれた気象条件を生かした早掘り甘しょが野市町を中心とした県中央部の海岸沿いの平坦部で昭和40年頃から栽培されるようになった。

当時は収益性の最も高いピーマン、キュウリ、ナス等の施設園芸が急速に伸びていた頃で甘しょ栽培の進展はあまり見られなかったが、昭和44年に共同育苗施設が設置され、翌年には稲作転換対策事業の実施に伴ない、それまで数十haであった甘しょが漸次普及し、47年には564haにまでなった。その後も価格の影響などで増減を繰返しながら着実に伸び稲転の主要品目として、61年では672ha、8,130 tの生産をあげている。また、1戸当たり栽培面積は60 aで10 a当たり約50万円の粗収益となっている。生産概況については下表のとおりです。

なお、収穫は5月から7月にかけて行なわれており、全てが生食用として取扱われ、園

芸連を通じての出荷が約60%、直接、地元市場業者等への出荷が40%となっている。

一方、畑主体で栽培されている普通甘しょについては、年々減少の傾向にあり、61年には、718ha、11,809 tとなっており、主にケンピ、アンコ等菓子原料用として地元業者に出荷している。

次に、本県の早掘り甘しょ栽培について紹介します。

1 品種 品種は、昭和50年までは高系14号で占められていたが、この頃より高系14号の短づるから選抜されたもので、短づるより着色が優れている土佐紅（昭53. 品種登録）が普及し、現在では、100%に近いものが土佐紅で占められている。この品種の大きな利点は、いもが比較的小さい頃から着色が進むため、ハウス栽培などの早期出荷に適することで、欠点としては土壌条件により形状と収量が短づるよりやや劣ることである。

2 作型 作型には代表的なものとして、下図のようなハウス栽培、大型トンネル栽培、

早掘甘しょ栽培面積と生産量の推移（単位：面積ha、生産量、出荷量 t、単価円、販売金額千円）

	面 積	生 産 量	出 荷 量	単 価	販 売 金 額	主 産 地
45	2,520	34,300	33,000	173	5,709,000	野市町
50	630	7,110	6,979	263	1,863,000	香我美町
55	575	6,830	6,689	400	2,676,000	土佐山田町
60	662	8,430	8,165	342	2,792,000	南国市
61	672	8,130	7,891	355	2,801,000	夜須町
70目標	700	10,500	8,400	350	3,675,000	

注) 45年度は普通甘しょも含む

二重トンネル栽培，面積の多いトンネルマルチ栽培，それに続くマルチ栽培がある。栽培にあたっては，労力配分を十分に考慮して，作型を組み合わせることが重要である。

販売単価をみると，早期出荷するほど当然高く有利となるが，月別の単価を比較すると出荷量の多い6月の出荷単位指数を100とした場合，早出しの5月は166，逆に遅くなる7月は86となっております。

早期出荷，良品生産，労力等を考えて，またその作型の特性を把握して，栽培を行うことが必要となってきます。

3 育苗管理 早掘甘しょは低温期に値付けるので，苗の良否が活着といものの着生に大きく影響します。従って，良い苗の生産には，育苗床土，ハウス内保温の管理を十分しておくことが大切である。

苗床ハウス面積は10a当たり83m²（25坪）を目安とし，いもは表皮の色が紅色で形は紡すい形，無病無傷の1個約250gのものを900個を準備する。

地温20℃になってから伏込みを行い十分灌水する。発芽促進のためポリマルチをしてから二重トンネルに被覆し，発芽までは30℃～35℃に保温するが，この時の地温不足と水分不足は発芽ムラとなるので，放任とならないよう常に管理に注意する。発芽すれば直ちにマルチをとり除き，高温乾燥による葉焼けのないように床温は30℃までとする。

早掘甘しょの作型

作型	月	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	模式図
ハウス栽培		○伏込み	○	×定植	×							
大型トンネル栽培			○	○	×	×						
二重トンネル栽培				○	○	×	×					
トンネルマルチ栽培				○	○	×	×					
マルチ栽培					○	○	×	×				

3月は急激に気温の上ってくる時期で，晴天の日は早朝から換気の必要な日もあるので温度管理には十分注意する。採苗10日位前からは特に換気を多くし，灌水もやや減らし，条件のきびしいトンネルへ出すので丈夫な苗に仕上げるのが大切です。この苗の順化ができていないと黄化，発根の不良が多くなる。苗床では，アブラムシ，ハダニ類，きんかく病の発生に注意し，この育苗床から病害虫を本圃へ持ちこまないようにする。

4 本圃管理 芽の肥大と着色，形状を良くするためには，まず土づくりが大切である。トンネルマルチ栽培では11月末までに10a当たり切りワラを1t，または完熟堆肥5～6t，苦土石灰120kgを施用し，2月までに2～3回深く耕うんし，土を十分風干させておく。この時，土壤がアルカリ性になると，かいよう病の発生が多くなるので，苦土石灰等の施用はpHを測定後その量を決定する。

元肥は，10a当たり成分量でおおむねチッソ6kg，リンサン15kg，カリ15kgを施用する。クロールピクリン処理をする圃場は，元肥の施用量を初回目は50%，連用地は20%程度減量する。畦作りは，土壤水分に注意し適湿となった時に畦幅85cmで保温，通気，透水をよくするため，できるだけ高畦とする。

次に土壤水分管理ですが，この管理が不十分だと裂開の発生がある。これは生育のごく初期からはじまり，かなり後半まで続きま

す。その原因として、植付初期の土壤乾燥、そのような状態への急な低温、あるいはその乾燥状態への遅れた多量の灌水が引きがねとなっている。この裂開がひどくなると、単なるワレではなく、扁平芋となってしまうこともある。この対策としては、植付け当初からの安定した土壤水分管理が必要です。従って、労力はかかりますが、植付前日には十分灌水することから始めます。特にピクリン処理を行った圃場では、土壤が乾燥しているので必ず灌水が必要となります。

植付け後25～35日頃は根が芋として分化する時期で、この時の急な、しかも、多量の灌水はワレの発生を助長するので特に注意します。芋の発根には地温が17～18℃必要で、一重マルチ栽培では無理な早植えは品質、収量を低下させる。早植えする場合は労力配分も考え、また、地温の確保できる二重トンネル

栽培、大型トンネル栽培とする。

5 最近の動き 本県の早掘甘しょは、主要品目として高い販売実績をあげているものの、近年、ウィルス病による帯状粗皮症いもの多発によって、品質及び収量の低下を招いている。この症状が生じた場合、価格は半値以下となり、生産農家にとっては、深刻な問題となっている。

このため、ウィルスに感染していないフリー苗を使った栽培方法の導入の声が高まってきた。本県としては、63年度、種苗センターに県単事業で増殖施設の整備を、また、産地農協については、国の「いも類優良種苗安定確保事業」により共同種苗増殖施設の設置を予定しており、高品質いもの生産に向けて強力な取り組みを行うこととしている。

＜筆者略歴＞ 昭和19年生まれ。昭和42年兵庫農科大学（現神戸大農学部）卒。同年県採用。普及所農業技術課等勤務、昭和58年より園芸蚕糸課。

『ジャガイモと映画』

ジャガイモは、人種問題というアメリカの病巣をえぐりつつ、親と子のつながりを描いた映画のタイトル『ワンポテト、ツウポテト（わかれ道）』になったが、私にとってとくに印象に残っているのは、『大脱走』と『旅情』の二つである。

『大脱走』は、ご存知スティーブ・マックイーンやチャールス・ブロンソンも出ている。第二次世界大戦下、ナチス・ドイツ軍が脱走癖のある空軍将校ばかりを集めて絶対に逃げられないという第三捕虜収容所をスイスの近くにつくり、厳重な監視のもとにおく。ここで番兵と捕虜との知恵比べが始まり、連合軍側はトムと名づけた地下トンネルを掘り、一度に250名の脱走を計画する。

脱走計画が仕上げに近ずいたときのこと、スティーブ・マックイーンが大量のジャガイモを手に入れてくる。何のためかといふかる兵士達を前に、彼はその皮を剥ぎ、あるものをつくる準備にかかる。ついに、7月4日の朝がくる。星条旗を掲げ、兵士達をたたき起こし、アメリカ独立記念日を祝おうとする。ジャガイモで秘かにつくって

いたのは蒸留酒であった。兵士達は暫くぶりにアルコールにありつき、二重の喜びを分かちあう。しかしこの日トムがバレル。これで屈する彼らではない。その後再び計画が練られる。その結末のほどは……。

もう一つは、1955年の『旅情』というイギリス映画。ジェーン（キャサリン・ヘプバーン）は、長い秘書生活で青春をすりへらし、やっとヨーロッパ見物の夢を実現し、ベニスまでやってきた。女の一人旅は、始めのうちは見るものすべてが珍しかったが、やがて孤独感にさいなまれる日々が続く。そんな彼女の前に骨董品店の主人レナード（ロッサノ・ブラッツィ）が現れる。彼と親しくなるのだが、妻がいることが判って、やけ酒を飲むシーンがある。この時のつまみは、ポテト・チップスであった。

イギリスでは、チップスをクリスプと呼んでいるが、これには「社快で、パリッとする」の意味がある。チップスを食べたジェーンが、これでスカットしたかどうか。

（北海道立中央農業試験場 主任研究員 浅間和夫）